

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学 終了報告書

所属(本学)	環境社会理工学院 融合理工学系地球環境共創コース		
現在の学年	修士1年		
留学先国	ドイツ	留学先大学	ベルリン工科大学
留学期間	2017年2月15日～2017年9月30日		

① 留学先大学(機関)の概略

ベルリン工科大学(Technische Universität Berlin、略称: TU Berlin)は、ベルリンに4つある大学のひとつ。総合工科大学である。ベルリン工科大学の歴史は、プロイセン国王フリードリヒ2世によって1770年に創設された鉱山夫・精錬工教習所(Berg- und hüttenmännische Lehrinstitut)にまで遡ることができる。他にも、1799年創立のベルリン建築アカデミー(Berliner Bauakademie)、1821年創設のベルリン工科学校(Berliner Technische Schule)などが、大学の前身として挙げられる。ドイツ有数のマンモス大学として知られる。現在、ドイツで二番目に大きな工科大学でもある。人文学部・数学・自然科学学部・プロセス科学学部・電気工学・コンピューター科学学部・機械工学・交通システム学部・建築学・環境学・社会学・都市工学などの併合学部(土木工学・応用地球科学なども)・経済・経営学部の多様な学部が存在する。

② 留学前の準備

ビザについてはドイツに入国してから行いました。私の場合は現預金の英文証明書やパスポート、現地保険など用意する必要がありました。修了要件の単位数は留学前にある程度取得しました。留学先の情報についてはインターネットで収集したりしていましたが、幸いにも、留学先の情報は、同じ大学にすでに交換留学していた同期がいたので、あまり困ることはありませんでした。留学の準備として、住居を探す必要があるが、大学からそれについての情報が送られてくるので、それを読み事前に準備をすれば問題はありません。

日本での研究に関しては、使う予定のデータとして持っていく、ドイツではそれを勉強して、日本に帰ってきたら、それを運用できるようにしました。就職活動に関しては、留学前に特に準備はしなかったです。

③ 留学中の勉学・研究

自分は、授業、研究、インターンと多種多様なことを行いました。3月の中旬にかけては、ドイツ語の語学の集中講座があり、ドイツ語の基礎をみっちり勉強しました。通常期間には、週1回のドイツ語講座をはじめ、ドイツをはじめとした水供給システムについて学ぶ講義や、地下水解析に関連する講義を受けました。授業は、日本のそれに比べると多種多様で、座学だけでなく、エクセルや解析ソフトを使った演習などがあり、わりと実践的な印象を受けました(本当は、水供給システムのところへ見学に行く講義もとったが、先生の都合で中止になった)。授業の履修のみで申請したため、研究室には所属していませんでした。

授業は基本的には、大人数での講義と少人数でのチュートリアルに分かれています。講義、テストでは高いインプット、アウトプットが求められ、日本での授業と比べプレゼンテーションの機会が多かったです。また、ベルリン工科大学の学生の授業参加度はきわめて高く、グループや個人でのプレゼンテーションも高いクオリティが求められ、授業の準備はしっかりと行わなければならなかったです。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

ドイツ国内をはじめ、ヨーロッパの各地に旅行しました。またサッカー観戦に行ったりしました。またタンデムパートナーを見つけて、暇なときは彼らと食事やパーティーなどをしました。このような普段経験することができないようなことができ、とても勉強になったと感じます。

現地に日本人が4人もいたため、みんなで協力して握り寿司、巻き寿司を作り、友人を招いて

寿司パーティーを開くなどしました。サッカーなど現地で盛んなスポーツの観戦においては、現地の人達の自国にかけける情熱を肌で感じる事ができ、良い思い出となりました。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

ひとまず英語力とバイタリティは成長したと思います。また見ず知らずの土地で過ごし、日々取捨選択する中で何が一番自分の中で大事にしている価値観なのかを見つけられたと思います。また留学先は静かな場所だったので、何事にも挑戦し、吸収できたと思います。

⑥ 留学費用

ベルリンの物価は日本と比べればとても安く、大学の寮費も月に4, 5万ほどで東京の物価とそこまで変わりません。学内では食費が安く、いろいろな施設を無料で利用できました。ただ自転車は新品は安くても5-6万円からしかなく、中古のものを買うことをお勧めしますが、店によってはすぐ壊れるものもあり、また日常的に盗難にあうので注意が必要です(ドイツでは置いてあるものは勝手に持っていかれる)。

そのため、そこまで生活費はかからないが、もし旅行や大学外での活動を考えているなら、ある程度予算を立てておいたほうが良いと思います。私の場合留学後もインターンをしていたのでその分も余裕がありました。

渡航費:約 10 万円(格安航空券の使用)

生活費:約 4 万円 / 月

住居費:約 3 万円 / 月

保険料:約 13 万円 / total

⑦ 留学先での住居

ベルリン工科大学では、5つの学生寮を提供しています。私が住んでいたのは Hubertusallee Wohnheim という大学のレジデンスで、風呂やトイレは別々のつくりになっている。どの寮にもある程度の施設を備えており、基本的には大学の中だけで生活はできます。ただ、寮ごとの施設の拡充度は異なり、インターネットで申し込みするのだが、施設が充実している寮は応募が殺到するため、希望通りには決まらないことが多いです。同じフロアの人に関しては、自分の場合、ドイツ人が全くおらず、代わりにヨーロッパはもちろんのこと、アジア、アフリカなどの各地の国籍を持った、非常に国際色豊かな感じでした。もちろん寮の抽選に外れる学生も多く、そのようなときは自らWHなど借りて生活しているようでした。

⑧ 留学先での語学状況

私は英語で生活しました。ベルリン工科大学の学生はほとんどの人が英語を喋れるので、ドイツ語が上手く話せないことにそれほど苦労はしませんでした。ただ店員、ドイツ人のお年寄りには英語が通じない人が多いので、英語でやっていくにしても日常生活に必要な最低限のドイツ語は学ぶ必要があります。また、スーパーの食品の表示が全てドイツ語なので簡単な単語を覚えていた方が楽です。

授業は留学生向けであったので、基本的に英語で行われていました。しかし、当然ドイツ語が話せた方が良いです。学生はみんな英語を流暢に話します。英語の勉強は留学中も続けたほうが良いです。会話で使われる言い回しやスラングなど、TOEFLやTOIECの勉強だけでは不十分なこともたくさん出てきます。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

留学中に取得した単位の認定を行う予定です。

⑩ 就職活動

留学中は特に就職活動は行いませんでした、また帰国後は冬インターンなどに参加しようと思います。

⑪ 留学先で困ったこと

留学情報は本音を言うあまり調べていませんでした。自分の専攻している分野(環境工学)の学部があることが分かっていたましたが、実際に現地で講義を受けていく中で授業の完成度と扱う教材のレベルの高さに驚きました。事前に HP などシラバスを確認したり、しっかり事前準備を済ませておくべきでした。生活面では、寮に着くと、部屋の中は全く掃除されておらず、ごみが散乱していました。棚や机の上は埃だらけで、バスやトイレは泥だらけでした。家具付きの部屋という事でしたが、汚いベッドマットがあるのみ、Wi-Fi にもつながらず、到着して部屋の中で絶望していました。また周囲が助けてくれるといったこともなく、全て自分から積極的に動く必要がありました。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

前に想像していたよりも刺激的で驚きの毎日でした。いますぐにでも戻りたい気分です。交換留学は単に勉強や研究をするためだけに行くのではありません。交換留学の強みはその都市・国の文化をたっぷり満喫する時間があることです。だからこそ、自分の行ってみたい国、触れてみたい文化を基準に選んでみるのも悪くないと思います。そしてその活動が自分の人生にとって何がポジティブ、ネガティブなのか見つめ直すいい機会になりました。迷っている方はぜひ、挑戦してみてください。最後にこのたびの留学にご理解を示していただいた研究室の先生方、両親、そして留学に関していろいろな面でサポートしていただいた担当者の方々に、感謝の意を示させていただきたいです。